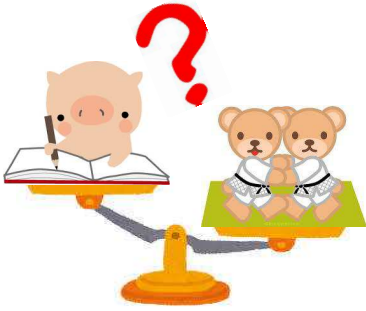


木漏れ陽

12月

平成28年12月1日 第44号
発行佐賀市教育研究所
発行責任者 所長 中村祐二郎



「勉強 or 柔道？」

学校教育課 指導主事 瀧上 純

年末から年度末にかけて、嬉しい知らせが届くようになる。「△△に就職が決まりました。」「〇〇に進学が決まりました。」柔道部で共に汗を流した卒業生たちからである。先日は、会議中にもかかわらず、私を呼び出し、押しかけ報告に来た生徒もいた。年々私自身の体力が衰えいくのは悲しいものがあるが、生徒たちの心身共に成長していく姿を見ることができるのは教師冥利に尽きるものである。

過去、柔道部を率いるにあたって、私を最も悩ませたのは柔道の指導ではない。生徒の勉強(成績)であった。つまり、「勉強と柔道の両立」である。保護者と顔を合わせれば、必ずと言っていいほど、「柔道は頑張っているけど、勉強がですね〜。先生、高校は大丈夫でしょうか？」という話になっていた。

日々の練習は、団体戦、個人戦の目標を決め、常に高い目的意識を持ちチーム一丸となり励んでいた。目標が「県大会優勝全国大会出場」ともなれば、時間は長く、内容は濃くなり、多くの練習会、遠征、試合に参加をするなどそれは厳しい練習になる。そして、常々、生徒たちには、「柔道で飯は食えない、しかし、柔道を通して飯は食えるようになる。やるからにはとことんやれ！やりきるのだ！」と気合いを入れていた。その反面、「一に勉強二に勉強、三四は家の事、そして柔道だ、勉強や家の事をやらなければ柔道をする資格はない。」とも気合いを入れていた。生徒達はもう大変である。

そのような中で、部活動を指導する際、常に自分自身に2つのことをチェックするようにしていた。

- ① 「生徒」「保護者」「指導者」三者の、部活に求める目標などが一致しているか。
- ② 「練習」「栄養」「休養」+「学習の時間」のバランスがとれているか。



①については、目標はもちろん、何のために部活動があるのか、部活動で何を求めるのか、学習面に対する保護者の願いや生徒の願いを含めて、三者の考えが一致しているかを常に確認していた。三者の考えが一致しなければ、部員たちには最高のパフォーマンスを発揮させることはできないし、保護者の協力も得ることができないのである。



②については、「練習」「栄養」「休養」のバランスがとれていなければ、いくら練習しても心身に負担になるだけで技術は身につかない。特に、「休養」が大切である。身体を休め、睡眠をとり、部活動で疲れた心と身体の回復を促さなければならない。疲れたまま練習しても集中力の欠如から、けがのリスクを高めるだけである。

そして、問題は保護者の願いでもある「学習の時間」をどう確保するかである。この4項目のバランスをとるために、週1回の土日いずれか完全休養日を設けることを基本とした。また、休日の練習では、練習開始時間を早め、12:00には家に着くように練習内容を工夫し、昼からの時間と夜の時間を「学習の時間」や「家族との時間」にあて、有意義な休日を過ごすように指導するなど「学習時間の確保」を意識した練習計画を立てた。

「練習」「栄養」「休養」+「学習の時間」のバランスが保たれていなければ、生徒自身が全力で部活動に臨むことができないし、保護者も安心して部活動に送り出すことができないのである。

しかし、柔道部としての目標を達成するためには練習が必要である。練習時間(量)に限られるのであれば、限りのない練習内容の工夫と指導法の改善など質にこだわり、練習の効果を最大限に生かすことを心掛けた。

その結果、保護者の信頼を得ることができ、保護者会から十二分なバックアップをしていただくことができた。そして、前任校の4年間において、全国中体連出場(男子団体1回、女子団体3回、男子個人3人、女子個人13人)、九州中体連出場(男子団体2回、女子団体4回、男子個人8人、女子個人15人)を果たし、チームや生徒一人一人の目標に近づくことができた。また、卒業後の進路についても、ほとんどの生徒が将来の職業を見据えた希望する高校に全員進学することができた。生徒一人一人が「勉強と柔道の両立」を意識し、厳しい練習に耐えながらも、勉強に励んできた成果であろうと思う。

挿絵の「ぶたさん勉強」と「クマさん柔道」のようにどちらか一方で迷うのではなく、天秤の上で揺れながらもバランスを取り続け、両立させるようにすれば、生徒にかかわる全ての人々が幸せになることができるだろうと思う。

平成28年度「佐賀市教育研究発表会」

1 目的 佐賀市の教育に関し、当面する教育課題やその対応等及び教科等の研究について成果の発表を行い、市内の教職員の理解を深めるとともに、資質向上を図る機会とする。

2 期日 平成29年 1月26日(木) 13:30~16:40(受付13:00)

3 会場 佐賀市東与賀農村環境改善センター 大研修室 視聴覚室

4 内容

(1) 受付 13:00~13:30

(2) 各プログラム日程等

① 開会・挨拶 13:30~13:35

② 教育研究所研究発表(大研修室)

・教育研究所研究発表(課題研究部) 40分 13:40~14:20

・教育研究所研究発表(児童生徒理解部) 40分 14:25~15:05

※ 移動・休憩 15:05~15:15

③ 個人研究発表(2会場に分かれて) 15:15~16:30

大 研 修 室	江里口大輔教諭(西与賀小)	読むこと書くことを関連させながら～	(国語)
	田中和也教諭(高木瀬小)	ADHDと二次障害を抱えた児童への～	(特支)
	山本将来教諭(高木瀬小)	児童が興味関心を持つ導入教材の作成～	(算数)
	熊本晋作教諭(北川副小)	友達と教え合いながら運動の楽しさを～	(体育)
視 聴 覚 室	高峰 勤教諭(諸富南小)	命の大切さやすばらしさを実感できる～	(理科)
	野口貴志教諭(春日小)	音読の楽しさを味わわせ主体的に活動～	(国語)
	桑原良太教諭(思斉小)	小中一貫校における児童のキャリア～	(社会)
	田原典尚教諭(成章中)	主体的に社会の形成に参画する生徒の～	(社会)

各学校2名程度の参加をお願いしていますが、興味のあるところだけでもいいので、できるだけ多くの先生方に参加していただきたいと思います。(教育研究所担当 大久保美奈子)

みんなでやりましょう! 生徒指導の「さ・し・す・せ・そ」

私が、生徒指導を担当する中で、いつも心がけている言葉です。危機管理にもよく使われています。

- ①「さ・・・最悪の事態を想定して(※最初が肝心)」
- ②「し・・・慎重に」
- ③「す・・・素早く」
- ④「せ・・・誠意を持って(※正確に)」
- ⑤「そ・・・組織で対応する」 ※私の経験上追加したもの



上記の①～⑤に関して、これまで私の経験や見聞きしたことを簡単に挙げてみます。

- ① 卒業式で、最悪の事態を想定して、職員が前日夜遅くまで、校舎・体育館内の巡回点検をしたり、組織で家庭訪問を行って気になる生徒を説得したりしたところ、当日は生徒の頑張りや感動の卒業式となったことがありました。備えあれば憂いなし。
- ② 問題行動対応の際に、事実確認をあいまいに行ったために、解決が長引いたことがありました。
- ③ いじめ問題が発生した時に、管理職への報告が遅れて、保護者が学校不信になったことがありました。
- ④ 保護者の電話相談に対して、担任の対応が雑だったために、関係が悪化したことがありました。保護者の心に寄り添って、傾聴し、「何を訴えているのか?」「なぜ、そう思っているのか?」をていねいに聞き取ることが重要だと感じました。
- ⑤ 問題行動発生時の連絡があった時に、職員室にいた10人以上の職員が、さっと飛び出して現場に向かい、組織で対応したことがありました。その時は、各自が判断し、あうんの呼吸で役割分担して素早い解決ができました。

このように、各学校が生徒指導の「さ・し・す・せ・そ」を全職員で共通理解、実践して、生徒指導力の高い、より良い学校に成長することを期待します。(生徒指導担当 青柳正文)